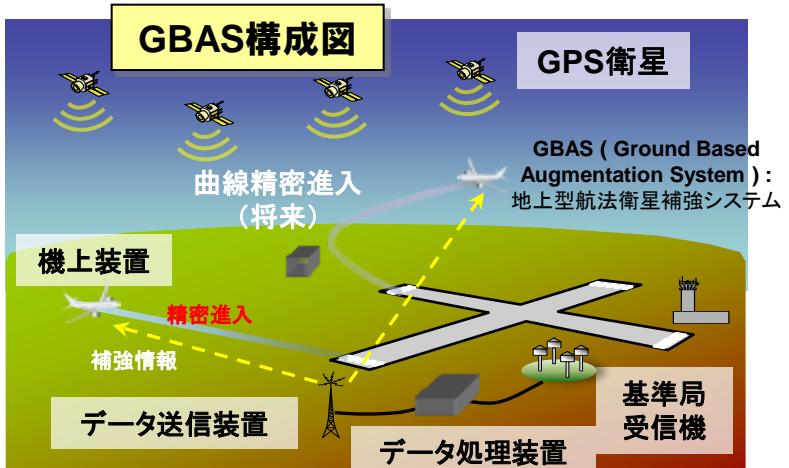


電子航法研究所の業務内容

研究開発業務

- 飛行中の運航高度化に関する研究開発(航空路の容量拡大)
- 空港付近の運航高度化に関する研究開発(混雑空港の処理容量拡大)
- 空地を結ぶ技術及び安全に関する研究開発(安全で効率的な運航の実現)

GNSSを活用した着陸方法の安全性評価



研究所成果

国際技術基準を満足する安全設計技術とリスク評価手法を開発し、技術成立性に目処付け

効果

・安全性や空港の処理能力の向上

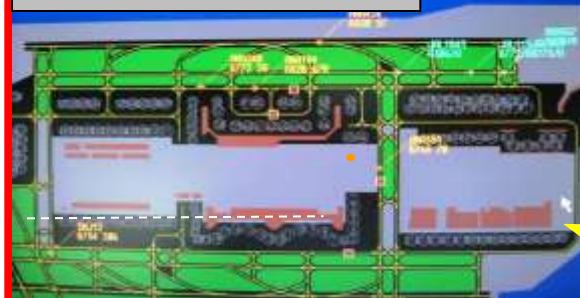
平成23年7月に世界初となるB787によるGBAS実験に成功。

- ▼1式の地上装置で空港の全滑走路の進入経路に対応。
- ▼自動着陸に対応する精密進入を実現。
- ▼柔軟な飛行経路設定が可能。

空港面監視技術の高度化



先進的監視システム(羽田)



効果

- ・安全性の向上
- ・混雑空港の容量拡大

研究所成果

混雑空港において安全かつ効率的に航空機の位置情報を把握するための監視技術を開発・評価し、航空局の導入、実運用に貢献

- ▼広範囲かつ正確な監視が可能。
- ▼降雨などの悪い気象条件に強い。
- ▼自動的に便名等が付加。

平成21年度: 羽田・成田空港

平成22年度: 福岡・大阪・関西空港に導入。

平成23年度: 那覇空港

平成24年度: 新千歳・中部空港に順次導入予定。